

【浦安キャンパス事例】

「留学生の就職率向上及び就職支援の充実に向けた報告：課題への対応と今後の展望」

I. 教学 IR による点検・評価のサイクル

(I) アセスメント・プランに基づいた点検・評価の実施

本学では、学生にディプロマ・ポリシー達成をより確実なものとするため、教育課程を継続的に検証・改善する仕組みとしてアセスメント・プランを策定している。

アセスメント・プランは、

- ・本学が定める 3 つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の適切性を検証すること
- ・教育課程が 3 つのポリシーに基づき適切に機能していることを確認すること

を目的としており、機関レベル、学部レベル、授業レベルの 3 段階において、多面的かつ総合的な点検・評価を実施している。

(図表 I) アセスメント対象及びその指標（2025.12 月現在）

アセスメントは各指標を相互に関連付けながら実施し、機関レベルでは、学部レベル及び授業レベルの結果を踏まえ総合的に点検・評価している。

なお、明海大学の学修成果は下表★印の指標を学修成果の主要指標として位置付けている。

アセスメント 対象		アドミッション・ ポリシーで示した資質能 力の適切性	カリキュラム・ポリシーに基づき設計されたカリキュラムの適切性		ディプロマ・ポリシーで 示した資質能力の適切性	3つのポリシーの整合性	
			設計の適切性	実行の適切性	学修成果		
指 標	学 部 レ ベ ル	①選抜機能評価 (各種入学試験とその 後の GPA/単位修得状 況/留年・退学状況との 関係)	③シラバスの第三者チェッ ク(DP と各科目の内容/順 序/ レベルの整合性)	⑤授業評価アンケート	⑥ジェネリックスキル (PROG) ★ 浦 ⑦専門性★ ⑧学修成果等アンケート★ ⑨成績評価 (GPA) ★	⑭3つのポリシーの整合性 点検(卒業率/就職率/進 学率/留年率/退学率/国 家試験合格率) ★	
		②入学時 基礎学力テスト	④出欠状況調査・学長によ るヒアリング調査				
				⑩卒業生調査 (卒業時学生アンケート) ★			
				⑪卒業後調査 (卒業生アンケート) ★			
				⑫進路先調査 (企業アンケート) ★ 浦			
			⑬地元産業界インタビュー調査 (浦安市企業アンケート) ★ 浦				
	授 業 レ ベ ル		③シラバスの 第三者 チェック(DP と到達目標 [ループ リック]/ 授業手法/ 評価方法の整合性	⑤授業評価アンケート	⑧学修成果等アンケート★ ⑨成績評価 ★		

(2) 「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」による点検・評価

アセスメント・プランに基づく適切性の検証にあたっては、「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト」を用いて定期的な点検・評価を実施している。

その結果については、IR推進本部から内部質保証推進委員会へ報告するとともに、改善に向けた提言を行っている。

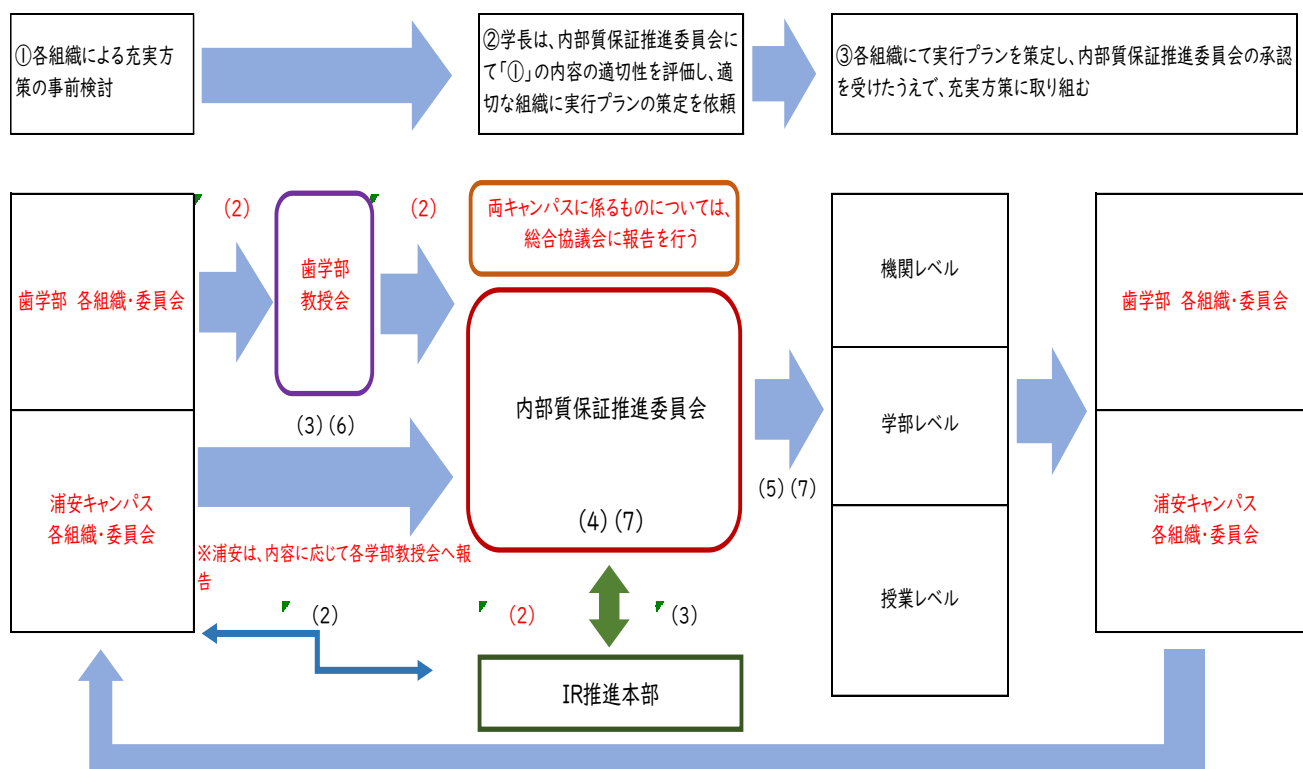
また、「3つのポリシーの整合性点検」では、

- ・卒業率
- ・就職率
- ・進学率
- ・留年率
- ・退学率

を主要評価指標とし、学年・学科別の推移を継続的に分析している。

分析結果をもとに改善策を検討し、期間レベルでの報告及び検証を経て、各実施責任者が具体的な改善策を実行するPDCAサイクルを確立している。

(図表 2) アセスメント実施方法 (2025.12月現在)



2. 点検・評価により留学生の就職率及び支援体制について改善点を抽出

(1) 現状

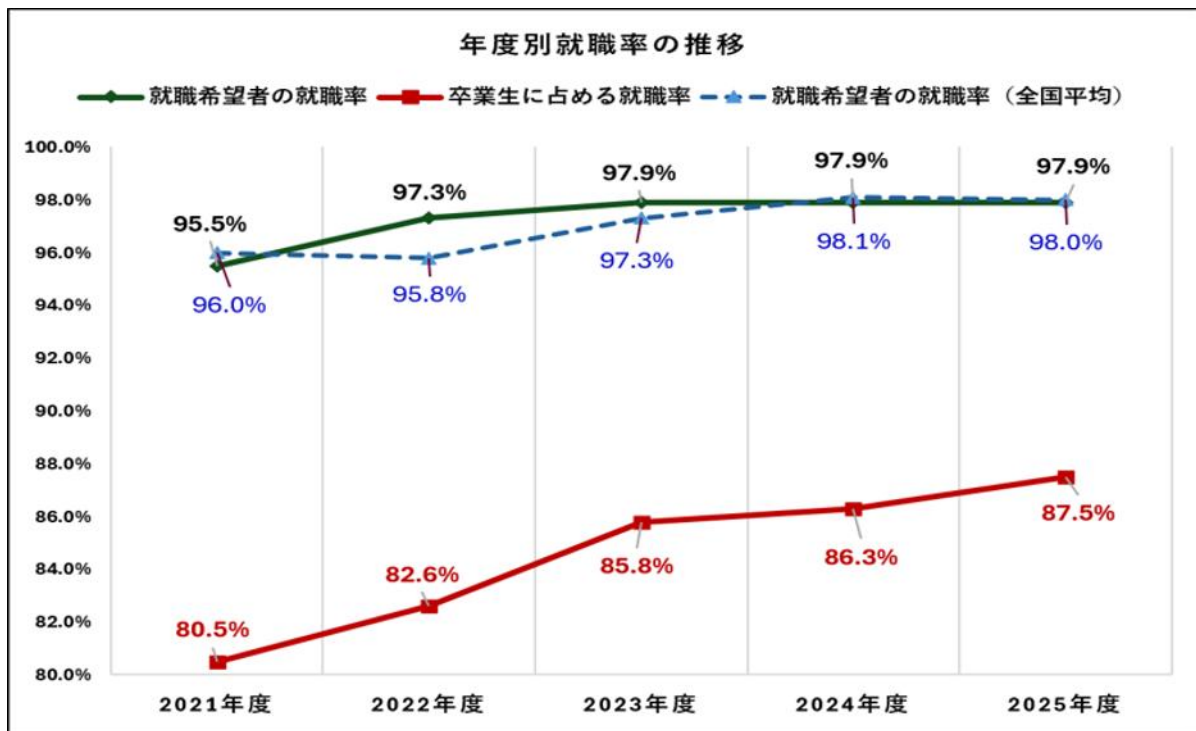
本学は建学の精神である「社会性・創造性・合理性」に基づき、学生一人ひとりの夢や目標の実現に向けた教育を推進している。

就職実績は、前述のアセスメント・プランにおける「3つのポリシーの整合性点検」に挙げた学修成果を測る重要な指標の一つであり、本学では「なりたいじぶん」の実現を支援するため、キャリア形成教育プログラム「MGO」を展開するとともに、多様な就職支援行事を実施している。

特に3年次以降は、原則として学生一人ひとりに就職活動専門のコーチングスタッフを配置し、エントリーシート作成から面接対策まで、きめ細かい支援を行っている。

こうした取組の結果、本学の就職希望者に占める就職率は、全国平均と同程度の水準で推移している。

(図表 3) 年度別就職率の推移



また、就職率に関するデータは毎月教学役職者間にて共有され、就職率向上に向けた改善対策の検討に活用されている。

(2) 留学生支援の取組

本学では、2023年度から文部科学省認定「MGO 留学生サポートプログラム」を開始した。

本プログラムは、日本語能力向上とキャリア教育を体系的に実施し、留学生の社会的・職業的自立を支援することを目的としている。また、インターンシップへの参加を通じて職業意識の醸成を図り、日本企業への就職及び入社後のミスマッチ防止を目指している。

完成年度となる本年度、4 年生のプログラム履修者は全員が日本国内企業から内定を獲得している。

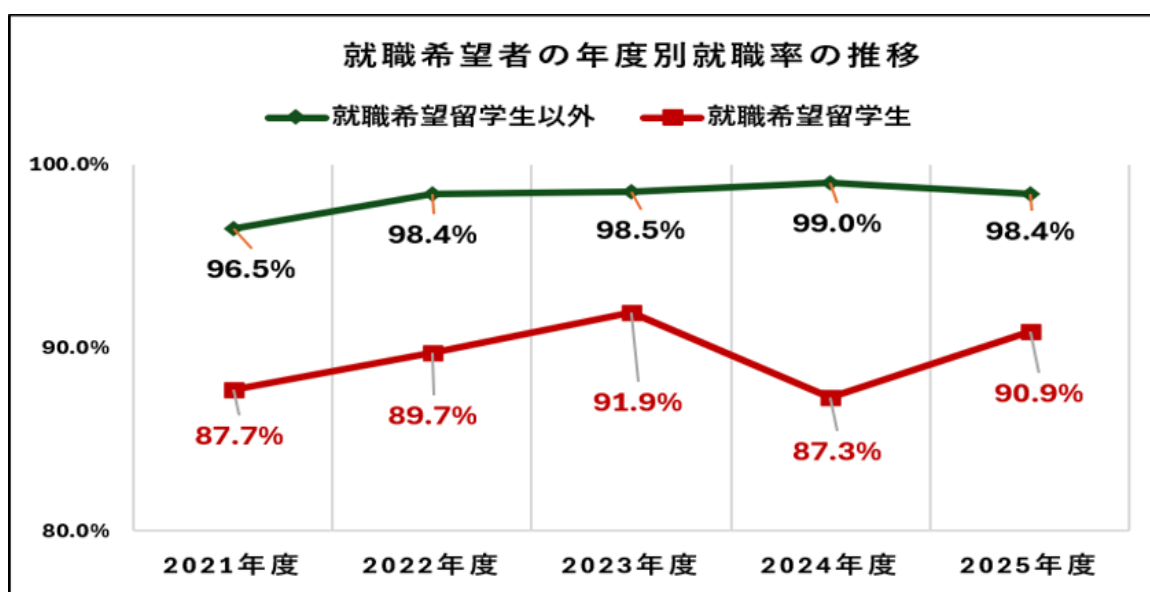
■文部科学省認定「MGO 留学生サポートプログラム」

明海大学公式ホームページ参照 (<https://www.meikai.ac.jp/news/20221201-2/>)

(3) 留学生就職率の現状

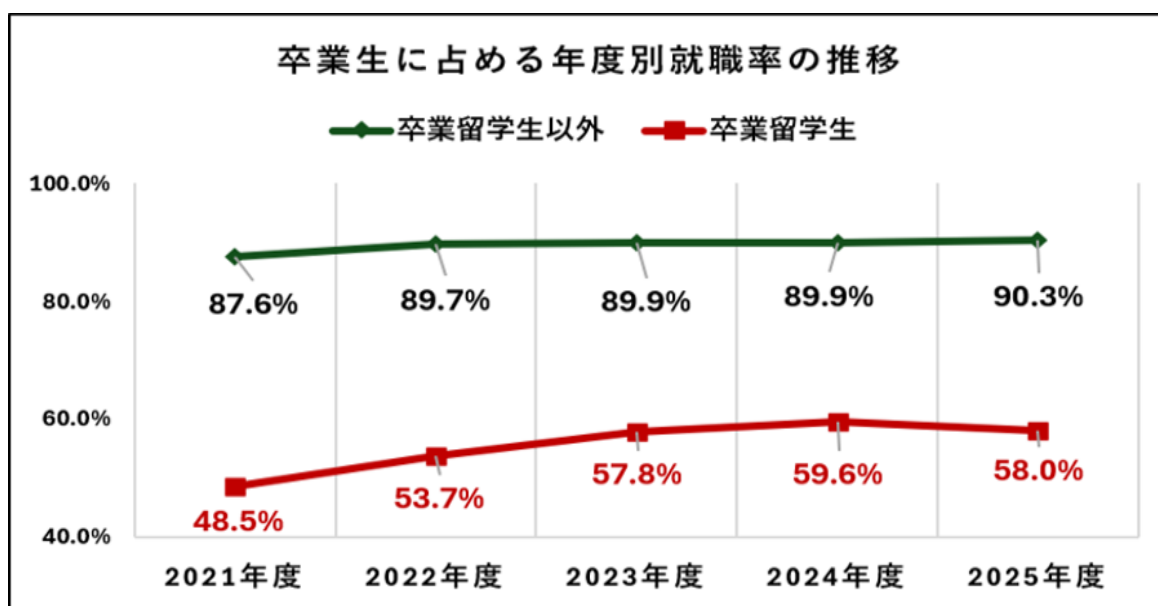
各種支援を実施した結果、過去 5 年間の留学生の就職希望者に占める就職率は約 91%で推移している。

(図表 4) 就職希望者の年度別就職率の推移



一方で、卒業生全体に占める就職率は約 58%にとどまり、日本人学生等を含む他の学生の就職率 90.3%と比較すると 30 ポイント以上の差が見られる。

(図表 5) 卒業生に占める年度別就職率の推移



また、近年、本学浦安キャンパスでは留学生の受け入れが増加しており、2026 年度においては、全入学者に対する留学生比率は 16.7%と前年の比率に比べて約 2.2 倍増加している。

■ 留学生の入学者数推移

入学年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
留学生数	80	67	65	69	157
留学生比率	8.4%	8.1%	8.3%	7.6%	16.7%

今後も、留学生比率の上昇が見込まれる中、留学生の就職率向上は大学全体の就職実績に大きく影響する重要課題である。また、就職実績は優秀な留学生確保にも直結することから、IR 推進本部において詳細な点検・評価を実施した。

(4) 抽出された課題

分析の結果、以下の課題が明らかとなった。

① 日本語能力不足

日本での就職活動及び就業に必要な日本語能力が十分でない学生が一定数存在する。

② 就職活動に関する理解・意識の不足

- ・ 日本特有の新卒採用スケジュールや仕組みへの理解不足
- ・ 日本企業及び外資系企業における外国人採用状況への理解不足
- ・ 日本の文化やビジネスマナーに対する知識不足

③ 就職未内定者への支援不足

- ・ MGO プログラム履修者以外への支援体制が十分ではない
- ・ 日本での就職を希望する留学生への個別支援の強化が必要

3. 改善に向けた取組

(1) 日本語能力向上支援

明海多言語コミュニケーションセンターにおいて、学生のレベルや進度に応じて課題や教材を調整し、講座、模擬試験など一人一人の学生にとって最適な学習となるよう工夫をし、日本語習熟度に合わせた指導を実施している。

また、入学時から 2 年生までは、日本語力テストや模擬試験、各種資格試験、対策講座などを通して、学生の日本語能力を縦断的にポートフォリオ評価し、フィードバックを行っている。

(2) 留学生への就職支援強化（2026 年度新規事業）

2026 年度よりキャリアサポートセンターに留学生専用コーチを配置し、企業開拓から個別指導までを含めた支援体制を強化した。

対象者

- ・留学生 4 年生 64 名
 - ・外国国籍学生 17 名
- 合計 81 名

主な取組

- 1.留学生向け日本就職ガイダンスの実施
- 2.全対象学生との個別面談による進路把握及び就職指導
- 3.留学生採用企業の新規開拓
- 4.企業とのマッチング支援

目標

就職希望者就職率 100%の達成

4. 取組の効果

本年度より開始した留学生向け就職支援では、対象学生全員との接触及び進路確認を完了した。その結果、コーチへの相談件数が増加し、支援体制の浸透が進んでいることが確認された。一方で、就職活動に対する意識や準備状況には個人差があり、継続的な支援の必要性も明らかとなった。

未内定者に対しては、主として次の課題が見られた。

- ・自己理解が十分でない
- ・業界・企業・仕事内容への理解不足
- ・日本語による円滑なコミュニケーション能力の不足

これらの課題については、コーチによる個別指導を実施し、改善を図っている。

また、2026 年 9 月上旬時点における内定率は、前年同時期と比較して大きく向上している。

■昨年度同時期比較（2026.9.21 現在）

指標	2025 年度	2026 年度	差異
就職希望者に占める内定率	35.4%	68.4%	+33 ポイント
卒業予定者に占める内定率	24.6%	40.6%	+16 ポイント

以上の結果から、留学生専任コーチを中心とした新たな支援施策は、一定の効果を上げているものと評価できる。

5. 今後の展望

本調査結果は、キャリアサポート運営委員会を経て、浦安キャンパス内部質保証推進委員会へ報告し、各学部・学科に共有する予定である。

また、姉妹校である朝日大学との IR 提言会においても本学の取組事例として紹介し、他大学からの助言や好事例を参考としながら、更なる支援体制の充実を図る。

今後は、留学生専任コーチ制度の継続的な運用に加え、日本語教育とキャリア教育の連携強化、企業開拓の拡充及び個別支援のさらなる充実を進め、留学生の就職率向上とキャリア形成支援に取り組んでいく。

以上